

별도 71  
인용 1011  
공무처  
인사기록부

刑部裁判原本

大正八年

大正覆審法院

刑部裁判原本



원본디스필

국가기록보존문서 원본으로부터 스캔해서  
수복본 디스크로부터 복사되었음을 증명함.

2019. 02. 11

국가기록원장





大正十一年  
刑部 第四三九號

# 判決

慶尚南道河東郡赤良面東山里  
九百二十番地 農

## 朴致和

大正十一年

女、者三対スル係字持違及被身  
件、大正六年四月二十八日釜山



地方法院晋州支廳ニ於テ被共シ懲  
從三年ニ処ス但三年間其刑ノ執行  
ヲ猶豫ス云々ト言核シタル判決ニ對

シ原案檢事ヲ以テ申上立  
ルニ因リ當院檢事野白新佐

手紙更ニ審理判決スルコト

左ノ如ク

### 主文

存判決之ヲ取消ス

被告朴致和ヲ懲役壹年ニ処ス  
押取ノ向韓兵之ヲ沒收ス

理由

被告ハ嘗テ河東郡赤良面長シ  
奉職シ居リシハ朝鮮ノ獨立運動  
シナサン為メ昨年三月十四日其職  
ヲ解シ今年一月十八日河東郡

河東邑外ノ市日ニ乘ジ今日午後  
三時迄在市場ニ未だセ居リタル

際群衆對シ被告ハ所有係ト押

取ノ向韓兵之ヲ打振リ朝鮮獨立  
運動ヲ高唱シ以テ朝鮮獨立  
運動ヲ高唱ス可ク群衆ヲ煽  
動レ因テ公共ノ治安ヲ妨害シタ  
ルトス

以上、自筆の文。

当公判廷に於ては、被告、前判示の全額  
執行合ふるべし。

被告の對する職務、訊問調査中

前判示の旨、法律上の前判示、

執行の趣意より、被告の供述記載

押収の係り、裁判記録に於ては、存在

徴レ之ヲ認ム

之の法に照して、被告の所為、新情に依

り、五年制令の七年の二年の二年の二年

の旨、依りて、被告の二年の二年の二年

判令の二年の二年の二年の二年の二年

の二年の二年の二年の二年の二年の二年

然るに、被告の二年の二年の二年の二年

其の二年の二年の二年の二年の二年の二年

選擇レ被告の二年の二年の二年の二年

正高



朝鮮總督府判事

宋必信

朝鮮總督府裁判所書記

楊中會印



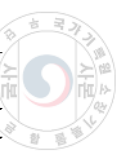
大正八年刑上第三〇五號

判決

慶尚南道河東郡赤良面東山里  
九百三番地農

被告人 朴 致和

早年



高等法院

右保身法違反被告事件ニ付大正八年五月  
三日大邱覆審法院ニ於テ言渡シタル判決ニ  
對シ被告ヨリ上告ヲ申立タリ依テ當院ハ朝  
鮮總督府檢事草場林五郎ノ意見ヲ聽キ判決ス  
ルヲト左ノ如シ

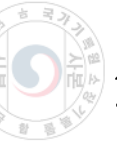
主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣意ハ自分保身法違反被告事件  
ニ付大邱地方法院吾身支店ニ於テ懲罰

年二三年召執手編譯一言後ヲ受ケ之ニ  
 限案之夕ニ所檢事ノ控訴之依リ大邱露  
 露法院ニ於テ人右執行編譯ヲ取消之懲役  
 一年ニ處スル旨言後テレ夕以テ右人過重  
 ト思料スルニ付趣意書ヲ提出ニ及テト  
 之ヲニ在レトモ檢事ノ控訴ヲ為シ夕  
 場會ニ於テ人第二審裁判亦人第一審判決  
 ヲ被告ノ不利益ニ變更スルモ違法ニ非キ  
 以テ此等糾合所編執手編譯ノ取消ヲ被  
 告ニ不利トナリトスル旨之ヲ以テ原判決非  
 議ノ理由ト爲スヲ得ル端昔ハ結局官署ノ職  
 權者行ヲ非難スルニ外テテ人上告ノ理  
 由トナラズ



高等法院





右説明ノ如ク本件上告ハ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條二則リ主文ノ如ク判決ス

大正八年七月三日

高等法院刑事部

裁判長朝鮮總督府判事

渡邊 暢

朝鮮總督府判事

永沼 圭方

朝鮮總督府判事

横田 俊夫

朝鮮總督府判事

水野 正三

朝鮮總督府判事

原 正鼎

高等法院

朝鮮總督府裁判所書記

菊地 徳次郎

右添本也

大正八年七月三日

等 法 院

朝鮮總督府裁判所書記

李 國 敏

